

2024 年度 工学院大学学園祭実行委員会新宿祭実行部

総括

学園祭実行委員会新宿祭実行部

部長 市ヶ谷 悠大

印



(ウ)八王子祭

学生団体の発表の場を提供し、本学の広報および発展に寄与することを目的として、9月に八王子キャンパスにて八王子祭を企画・運営した。また新宿祭実行部の委員が運営に加わることで昨年度の経験を活かし、八王子祭実行部のみでは目の行き届かない部分の管理をすることができ、八王子祭をより安全に円滑に運営することができた。

1. 組織構成

学園祭実行委員会新宿祭実行部に所属する32名によって構成した。組織体制としては、部長、副部長、会計の三役と渉内局、渉外局、コンサート局、企画局、資材局、広報局、技術局の計7局によって構成した。

2. 方針

本実行部は、2年間の八王子祭実行部での経験、技術を駆使して、新宿祭を企画・運営する。昨年度の新宿祭は新型コロナウイルス感染症によって減少した来場者数も改善する兆しが見える結果となった。そこで今年度の新宿祭はより発展していくために、広報に力を入れ集客面の改善を図る。そして、来場者の需要を理解し、来場者目線での企画・運営を行い、各コンテンツの強化を行うことで、参加団体、来場者の満足度を向上させることを方針とする。

3. 目的

本実行部は、11月に行う新宿祭を企画・運営する組織である。新宿祭を円滑に運営し、広く学生への参加意欲を喚起し、参加団体・来場者の満足度を向上させるとともに、学生生活の充実に寄与し、本学の発展に寄与することを目的とする。また学園祭という幅広い対象者が来場する場を設けることで、本学の広報にも寄与する。

4. 活動内容

(ア)新宿祭全体会議

新宿祭を円滑に運営し、来場者、参加団体に満足していただくために、委員の意識統一および向上を行い、団体内の結束を強めることができた。また団体内での情報共有を行い、本実行部全体での活動を本実行部全員が理解し、局間での情報伝達の差を無くすために行った。ただ今年は全体会議の開催回数が例年より少なくなってしまうため、全体の意識の中たるみを防げなかったため、来年度には会議の開き方を改善していくことが望まれる。

(イ)学園祭全体会議

別々のキャンパスで活動をしている八王子祭実行部と新宿祭実行部の間で情報共有をすることと、委員会全体での意識統一および向上を行った。また両実行部での問題を共有、討論をし、改善を努め、より良い実行部、委員会にした。

(エ)新宿祭

本実行部は、学生が学術・文化活動の成果を発表する場を企画・運営し、本学の広報および発展に寄与することを目的とし、11月に新宿キャンパスで新宿祭を企画・運営した。そのためにステージ企画、教室展示、模擬店を中心とした学生団体の発表の場を提供し、日々の活動の発展と今後の活動の促進および学生生活の充実、向上につなげた。また来場者の新宿祭への満足感により、本学の知名度向上につなげ、本学の広報活動に貢献した。

次に学園祭で毎年掲げているテーマによって、キャンパス全体を1つの世界観で統一し、来場者、参加団体を非日常の世界に引き込むための装飾を行った。また、新宿キャンパスの特徴である、外部の雰囲気と差別化できる閉鎖空間を活かし装飾を施した。

アトリウムには特設ステージを参加団体の発表の場の提供の一部として設置した。そしてアーティスト、芸能人を招致してのアーティストライブや笑いライブ、文化会主催の声優トークショーや参加団体による発表、本実行部が主催する企画といった、老若男女の来場者にあった様々な企画を行い、より多くの来場者が盛り上がることを目指す場を作りました。

キャンパスの外部では、模擬店を開催し、閉鎖的な新宿キャンパスの外部とのつながりを生む要因とした。また来場者が多くのコンテンツに回りやすくするために新宿祭堪能スタンプラリーを実施し、参加団体の発表の場への来場者を誘導し、来場者の満足度と参加団体の満足度の双方を向上させることができた。

1階東口付近の階段では、新宿キャンパスのビル型キャンパスの特徴を活かした独自の企画である鉄人29階を実施した。来場者には、新宿キャンパスの魅力を体感してもらい、本学に興味を持っていただいた。

次に今年度は、近隣とのつながりをより深めることができた。例年から関わりのあった十二社商店親睦会の方とは継続して連携を取りながらも、新たに本学の所在する西新宿一丁目の町会とも連携をし、熊野神社例大祭での協力を行った。また近隣の小学校PTAの保護者の方からの依頼での新宿祭での企画での知識、技術を小学校でのイベントに力を貸しもらって、連携を強めた。来年以降も継続的に地域組織、地域住民との連携を強めていき本学および新宿祭の発展に努めていくことが期待できる。